

楢葉町 除染検証委員会
今後の検討・とりまとめの方向性について
(骨子案)

「こどもが胸をはれる楢葉町の復興のために」
8項目の答申

本委員会は、別紙の放射線に関して把握、整理、分析すべき諸指標を参考としながら、以下の8項目に取組み、帰町して「こどもが胸をはれる楢葉町の復興」を実現すべきと考えます。

- 1 帰町は、住民の当事者主権を基本とし、住民の判断が最も尊重されるべきであり、賠償と地域指定は切り離す。
- 2 生活環境における空間線量の安全基準については、震災事故前の管理基準をもとに対応を考える。
- 3 住民(特に未成年)には、内部被ばくの経過観測と、専門家による丁寧な説明を行う。
- 4 水と食べ物の安全性について、高いレベルの安全を確保する。
- 5 農業・漁業の再興のため、抜本的な環境回復策、全品放射能検査機の開発等の対策を講じる。
- 6 町の7割を占める森林の除染による安全確保と林業の復興のために、中長期的な取り組みの道筋をつける。
- 7 最高度の安全性を持つセシウム回収型の減容施設を設置する。
- 8 復興を加速化するための交通の整備を早急に行う。

<項目ごとの指標>

- 1 帰町については、当事者主権を基本とし、賠償と避難指示解除とは切り離されるべき。なお、国が目標としている1mSv／年未満の地区については、第1回目の除染の目安を完了したと考え、その他の地域も含め第1回目除染に引き続いてホットスポット対策等の適切な措置を継続的に実施する。

最終的には、震災前の環境への回復を目指し、政府と東京電力(株)は、被災住民に対し本格的な環境回復と地域経済社会の復興まで責任をもって対応する。

(関連指標)

A ①空間線量

- 2 住民の立場を応援する姿勢に立って、妥当と判断する地域においては、空間線量に応じた防護対策や除染へのさらなる取り組みを並行しつつ、地域の環境と生活、経済の復興に全力で取り組みを開始する。また、こどもが胸を張って成長していける環境を取り戻す。

(関連指標)

A ①空間線量 ②内部被ばく線量

B-1 ③空気 ④水 ⑤食物

B-2 ⑨住宅 ⑩公共施設、公園 ⑪道路

- 3 楢葉町のこどもに対して、定期的なホールボディスキャンを行える体制を整え、検査結果は、専門家から懇切丁寧に住民に説明される体制を整備する。

(関連指標)

A ②内部被ばく線量

- 4 水道水における高頻度の計測実施、その他の地産・地消の食品に関する「すぐ測定できるシステム」を構築する。さらなる取り組みとしては、木戸ダム湖沼、ため池の浚渫とセシウム回収型焼却のシステムを政府及び東京電力(株)に要望し実施していく。

(関連指標)

B-1 ④水 ⑤食物

- 5 米の試験耕作と全袋検査を全域で開始し、必要に応じて土壌改良を含め抜本的な環境回復策を講じる。農業・漁業・畜産業に係わる全品検査の体制の整備、全品検査機の開発を進めるための要望を政府と東京電力(株)に要望する。

(関連指標)

B-1 ⑥農作物・農地 ⑦漁業 ⑧畜産業

- 6 具体的には、楢葉町におけるバイオマス発電とそれを用いた長期除染計画の試験を開始するための要望を政府と東京電力(株)に要望する。

(関連指標)

B-2 ⑫林業・森林

- 7 住民の同意を前提として、周辺に放射性物質が排出されない最高度の構造の減容施設を設置するための要望を政府と東京電力(株)に要望する。

(関連指標)

B-1 ③空気

- 8 常磐自動車道の早期開通、林道などの除染と整備を実施することで廃棄物処理の効率化や経済活性化を促進して復興を加速化する。